

# 「開かれた総合水試」 高度情報化事業

事務局：企画開発推進室

コンピュータシステムを利用して、人工衛星情報、漁獲情報、魚病情報等の水産研究にとって有用な各種の情報を収集するとともに、「開かれた水産試験場」として、蓄積された情報をもとに各種情報の発信に努めた。

また平成17年度も、昨年度に引き続き、漁業者と直接意見を交換し、現場のニーズに添った研究を行うことを目的に、移動水試等を開催した。

さらに、県の研究機関が科学技術振興課に統括され、試験研究内容及び機関の外部評価について、統一的な評価システムが実施された。

## 1) 試験研究情報の収集

### (1) 人工衛星情報処理システム

人工衛星ノア12号、14号、15号より、九州近海の水温画像データをほぼ毎日受信した。得られた情報はただちに解析を行い、そのうちの一部のデータについてはFAX情報サービスシステムを通じて、情報提供を実施した。

平成17年度情報収集回数：延べ 717回

### (2) 魚病情報データベース

県下各地の魚病発生情報を収集し、データベースへの登録を171件実施した。

魚病データベース累積件数 合計 2,851件

### (3) 海況データベース

県下各海域の海況情報を収集し、データベースへの登録を15,529件実施した。

海況データベース登録件数 合計 208,675件

## 2) 試験研究情報の発信

### (1) インターネットによる情報発信

インターネット上にホームページを開設し、以下の情報の提供を実施した。

(ホームページの主な内容)

○総合水産試験場の施設の紹介

○情報サービス

○漁海況情報

○人工衛星画像

○最新の試験研究話題のコーナー

○マリラボニュース

○水産関係リンクページ

○インターネットmamパーク

平成17年度来訪者アクセス回数 延べ 14,126人  
(携帯サイトを含む)

### (2) 音声・FAX情報サービス

音声・FAX情報サービスの運用を行い、以下の情報の発信を行った。

○漁海況情報

○人工衛星による水温画像

○定線観測情報

○魚病情報

○赤潮情報 等

システムによる情報発信件数 計 4,065件

### (3) 情報誌の発行

平成18年2月に「最近の主な成果」を発行し、移動総合水産試験場等で配付した。

\* 情報収集・発信実績は、表1のとおり。

## 3) 移動総合水産試験場の開催

漁業者と直接意見を交換し、現場のニーズに添った研究を行うことを目的に移動総合水産試験場を開催しており、平成17年度からは、より専門的に細かく現場のニーズを把握するため、地区や部会等の要望に応じて開催することとし、県内3地区で移動総合水産試験場「出前水試」を開催した。

○平戸市獅子：平成18年3月1日

参加者数：47名

○長崎市戸石：平成18年3月14日

参加者数：15名

○ 新上五島町神部：平成18年3月23日

参加者数： 25名

合計 87名

各会場とも活発な質疑が交わされ、また研究課題に対する意見や要望等も寄せられ、非常に有意義な催しとなった。



(平成18年3月1日 平戸市獅子会場)

#### 4) その他

##### (1) ながさき水産科学フェアの開催

当水試がある新長崎漁港地区の国際海洋研究ゾーンに、(独)水産総合研究センター西海区水産研究所が平成15年に新築移転し、既設の長崎大学環東シナ海海洋環境資源研究センターとあわせて水産研究の3機関が集積した。これを機会に、同年から3機関共催で「な

がさき水産科学フェア」を実施しており、第3回目を10月に開催した。

3機関では、施設を開放し、各種の水産関係の体験や施設の見学等のイベントを行うとともに、シンポジウムを開催した。

当日の参加者は、620名で3機関の試験研究活動や水産業への興味と理解を深めていただいた。



(平成17年10月23日 第3回水産科学フェア)

##### (2) 記者室投げ込み等

試験研究で得られた成果を、漁業者をはじめ県民に広く伝え、成果の普及を図ることを目的に、記者室投げ込み等の広報活動を行った。

平成17年度記者室投げ込み件数 11件

(担当：伊東)